



2025年6月期

# 決算説明資料

2025年 8月13日

証券コード 3446

株式会社ジェイテックコーポレーション  
<https://j-tec.co.jp>



Photo Akira Ito / aifoto

Optical

Device Development

Life Science

ESCO,Ltd.

**01 ビジネスセグメント**

**02 2025/6期 業績**

**03 2026/6期 業績見通し**

INDEX

01

# ビジネスセグメント



INDEX

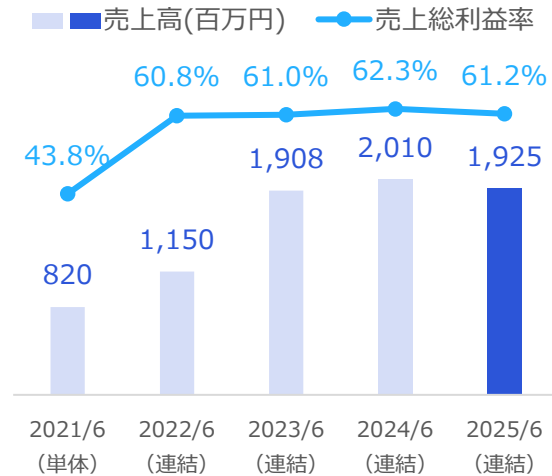
02

# 2025/ 6 期業績

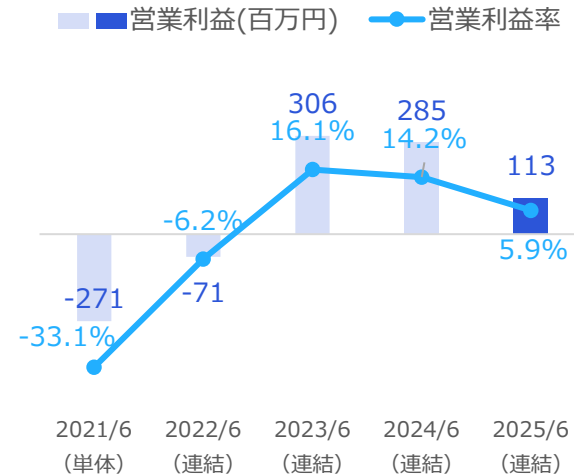
## 2025/6期 決算：ハイライト

- 前年度比で減収減益
- 販管費の増加により営業利益率は前年度比8.3%悪化
- ROEは前年度比5.5%低下

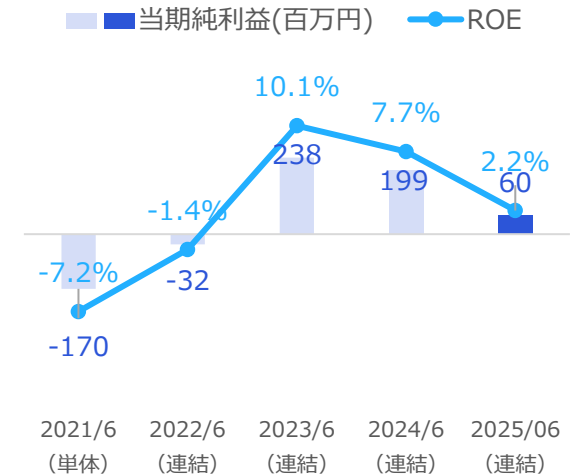
### 売上高と売上総利益率



### 営業利益と営業利益率



### 当期純利益



## 2025/6期 決算：損益状況

- 前年度比で売上高は4.2%減少
- 売上高減少に加え、生産性向上や研究開発促進を目的とした人件費増によって各種利益は前年度比で低下

(百万円)

	損益状況（累計）			
	2024/6期	2025/6期	前年度比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	2,010	1,925	-84	-4.2%
売上総利益	1,252	1,178	-73	-5.9%
売上総利益率	62.3%	61.2%	-1.1pts	
営業利益	285	113	-172	-60.2%
営業利益率	14.2%	5.9%	-8.3pts	
経常利益	310	102	-208	-67.2%
経常利益率	15.5%	5.3%	-10.2pts	
税引前利益	284	101	-183	-64.4%
当期純利益	199	60	-139	-69.8%
当期純利益率	9.9%	3.1%	-6.8pts	

## 2025/6期 決算：四半期ごとの業績推移

- 4Qは前年同期比で減収減益、売上総利益率は低下

(百万円)

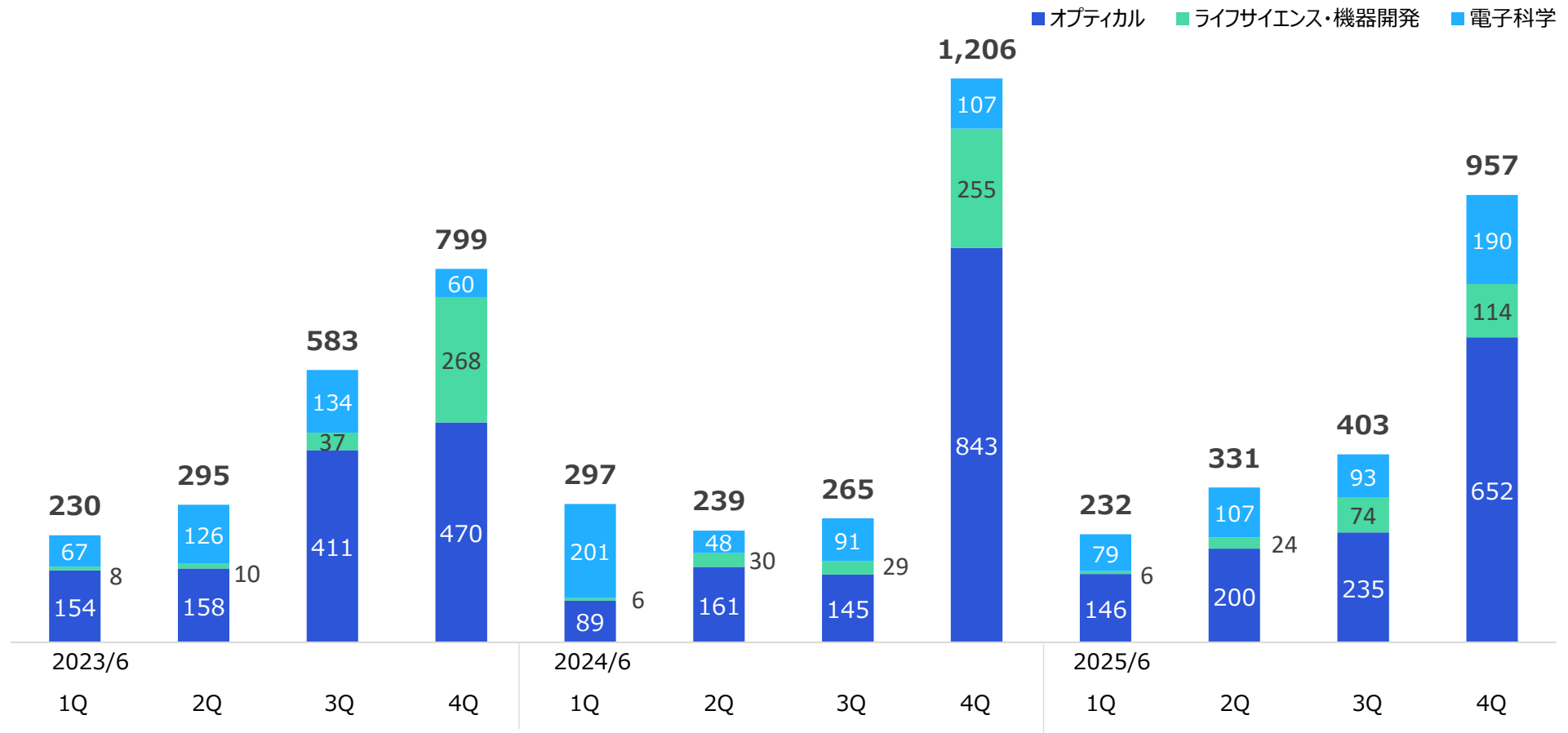
	2024/6期				2025/6期							
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	3Q/4Q比		前4Q/4Q比	
									増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	297	239	265	1,206	232	331	403	957	554	137.5%	-248	-20.6%
売上総利益	156	134	150	810	153	172	247	604	356	144.1%	-206	-25.4%
売上総利益率	52.5%	56.2%	56.7%	67.2%	65.9%	52.1%	61.4%	63.1%	+1.7pts		-4.1pts	
営業利益	-93	-115	-78	573	-132	-81	-28	356	384	—	-216	-37.9%
営業利益率	-31.4%	-48.1%	-29.4%	47.5%	-57.1%	-24.5%	-7.0%	37.2%	+44.2pts		-10.3pts	
経常利益	-93	-117	-58	580	-147	-81	-28	359	388	—	-220	-38.1%
経常利益率	-31.4%	-48.9%	-21.9%	48.1%	-63.3%	-24.4%	-7.2%	37.5%	+44.7pts		-10.6pts	
税引前四半期利益	-93	-117	-61	557	-147	-81	-29	359	388	—	-198	-35.5%
四半期利益	-74	-84	-47	405	-105	-62	-25	254	280	—	-151	-37.3%
四半期利益率	-25.1%	-35.0%	-17.8%	33.6%	-45.4%	-19.0%	-6.4%	26.6%	+32.9pts		-7.0pts	



## 2025/6期 決算：事業セグメント別

- オプティカルの売上高は前年度比0.5%の微減
- ライフサイエンス・機器開発も下期偏重を見込むものの成約に至らず、前年度比31.5%の減収
- 電子科学は主力装置売上が順調に推移し、前年度比5.1%の増収

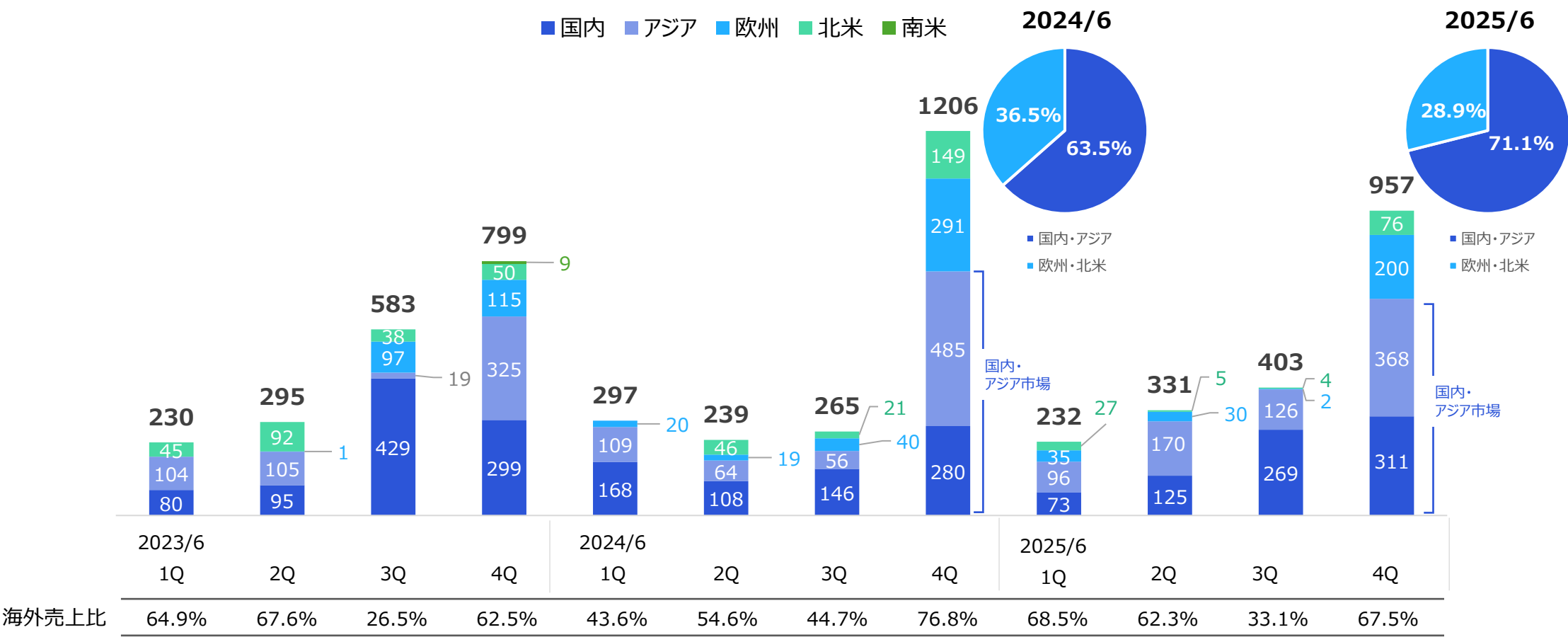
四半期売上高 事業セグメント別 (百万円)



2025/6期 決算：地域別

- 国内を含むアジア市場が前年度63.5%から71.1%と増加し、今後も拡大を見込む

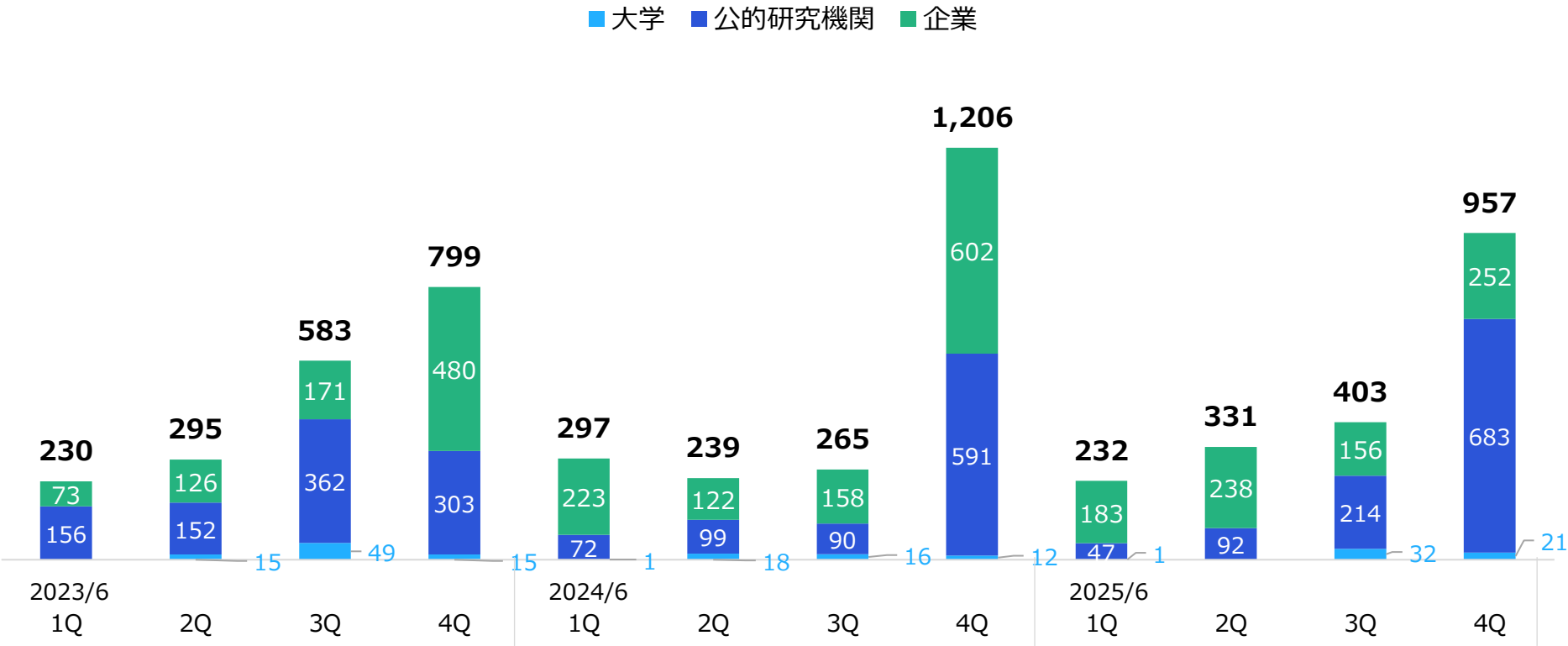
四半期売上高 地域（出荷先）別（百万円）



# 2025/6期 決算：顧客属性別

- オプティカル事業が売上をけん引し、依然としてB to G（大学＋公的研究機関）が主体

四半期売上高 顧客属性別（百万円）

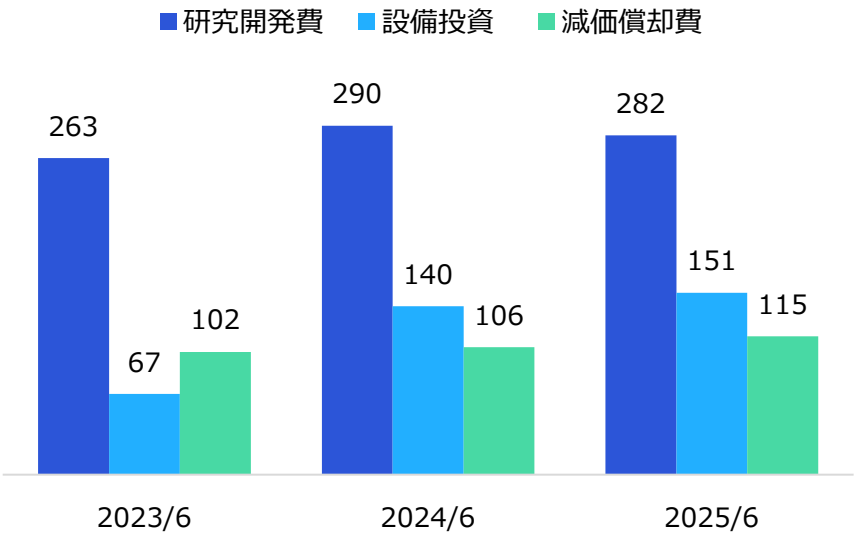


# 2025/6期 決算：投資・キャッシュフロー

- 生産性向上のための設備投資に関しては増加、研究開発は昨年度同様に注力
- 売上債権の減少による収入増によってFCFは大幅プラス

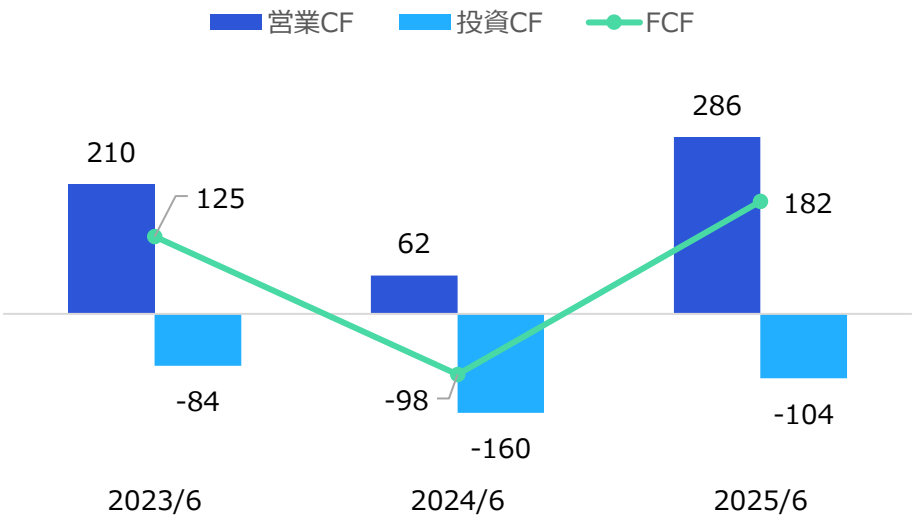
投資等 (百万円)

	2023/6期	2024/6月期	2025/6期
研究開発費	263	290	282
売上高比率	13.8%	14.4%	14.7%
設備投資	67	140	151
減価償却費	102	106	115



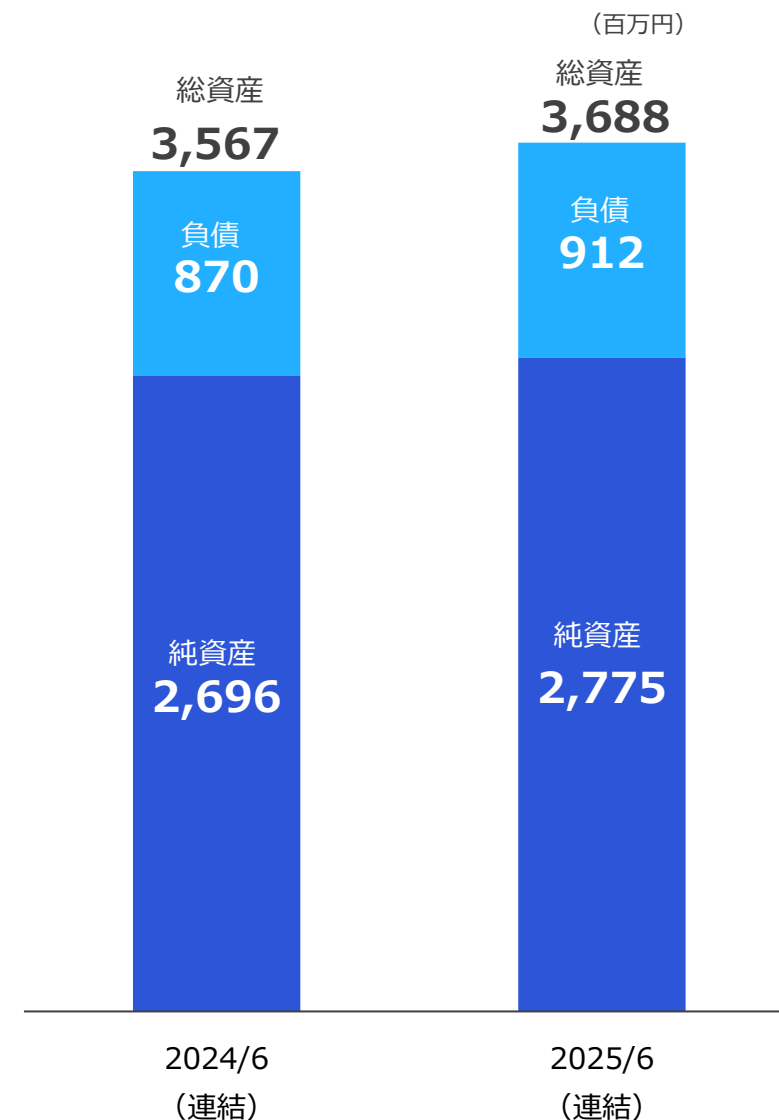
キャッシュフロー (百万円)

	2023/6期	2024/6期	2025/6期
営業CF	210	62	286
投資CF	-84	-160	-104
FCF	125	-98	182



# 2025/6期 決算：財務の状況

		(百万円)				
		2024/6期 (連結)		2025/6期 (連結)		増減
資 産 の 部	流動資産	1,815	50.9%	1,939	52.6%	123
	(現預金)	(610)	(17.1%)	(712)	(19.3%)	(102)
	固定資産	1,751	49.1%	1,748	47.4%	-3
	(有形固定資産)	(1,339)	(37.5%)	(1,377)	(37.4%)	(38)
	資産合計	3,567	100.0%	3,688	100.0%	120
負 債 の 部	流動負債	413	11.6%	493	13.4%	79
	固定負債	457	12.8%	419	11.4%	-37
	負債合計	870	24.4%	912	24.7%	41
純 資 産 の 部	株主資本	2,696	75.6%	2,775	75.3%	78
	(資本金)	(837)	(23.5%)	(847)	(23.0%)	(9)
	(資本剰余金)	(797)	(22.4%)	(807)	(21.9%)	(9)
	(利益剰余金)	(1,061)	(29.8%)	(1,121)	(30.4%)	(60)
	純資産合計	2,696	75.6%	2,775	75.3%	78
負債純資産合計		3,567	100.0%	3,688	100.0%	120



INDEX

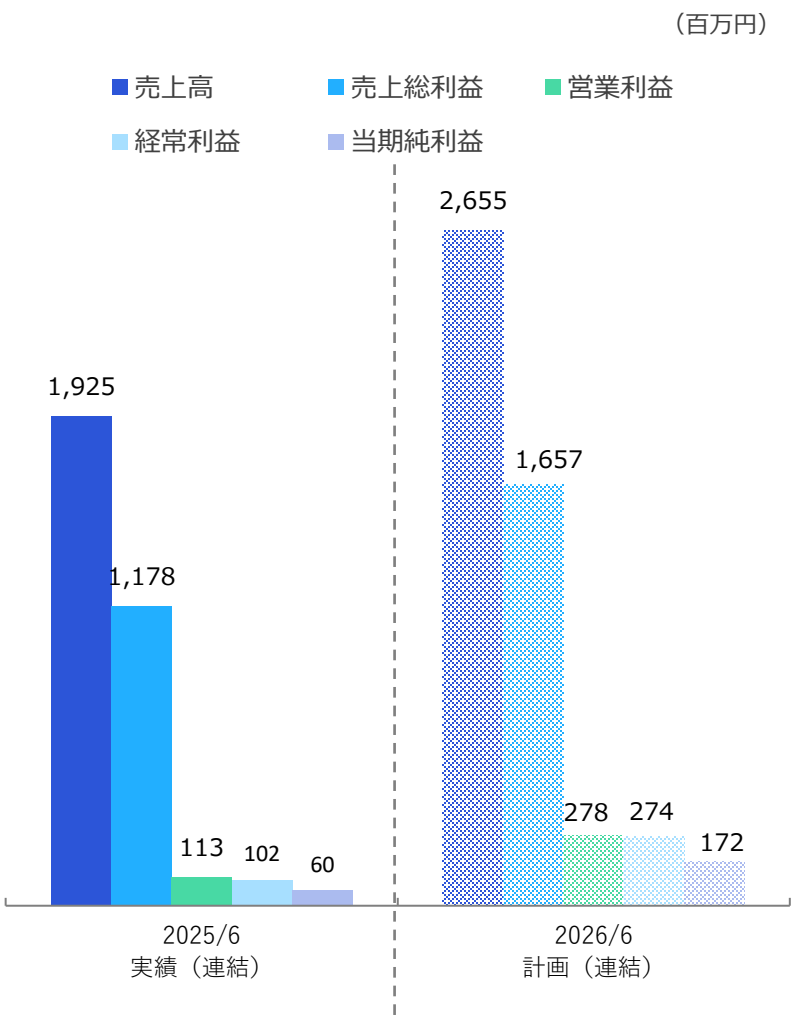
03

# 2026/ 6 期 業績見通し

# 2026/6期 業績見通し

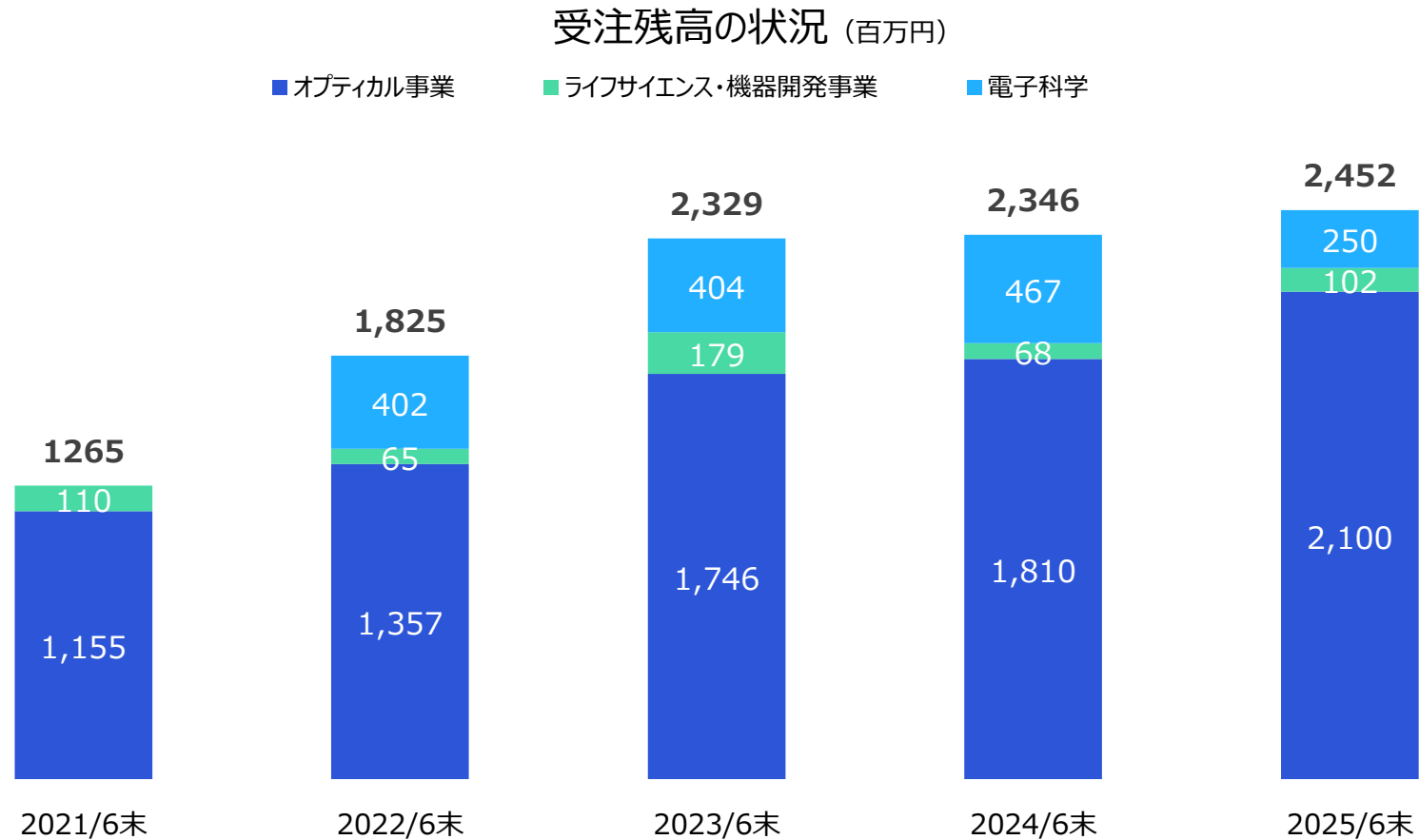
- 売上高は前年度比37.9%増を見込む、増収増益見通し
- 各事業とも各種利益率は大幅改善

	(百万円)		
	2025/6期 実績 (連結)	2026/6期 計画 (連結)	前年度比
売上高	1,925	2,655	137.9%
売上総利益	1,178	1,657	140.6%
売上総利益率	61.2%	62.4%	
営業利益	113	278	244.9%
営業利益率	5.9%	10.5%	
経常利益	102	274	268.8%
経常利益率	5.3%	10.3%	
当期純利益	60	172	285.9%
当期純利益率	3.1%	6.5%	



## 2026/6期 受注残高

- アジア市場の旺盛な受注を背景にオプティカルの受注残が積み上がり、来期以降の収益に大きく貢献



※受注確定分と受注確度の高い案件の合計  
※電子科学については2025/6末時点の数字



2026/6期 業績見通し：セグメント別見通しのサマリー、計画のポイント

		(百万円)		
		2025/6期 実績 (連結)	2026/6期 計画 (連結)	前年度比
光学デバイス	売上高	1,234	1,650	133.7%
	セグメント利益	526	725	137.8%
	セグメント利益率	42.7%	44.0%	
精密機械	売上高	130	404	308.6%
	セグメント利益	-13	48	—
	セグメント利益率	-10.1%	12.0%	
先端材料	売上高	89	91	101.5%
	セグメント利益	-38	3	—
	セグメント利益率	-43.2%	4.3%	
電子デバイス	売上高	471	510	108.2%
	セグメント利益	41	45	111.3%
	セグメント利益率	8.7%	9.0%	
調整額	売上高	0	—	
	セグメント利益	-401	-544	
合計	売上高	1,925	2,655	137.9%
	営業利益	113	278	244.9%
	営業利益率	5.9%	10.5%	

光学デバイス事業

- アジア市場（中国、台湾、韓国）の受注が旺盛
- 日本や欧米にある複数の先端放射光施設がアップグレードを備える
- 半導体向け高精度光学部品の受注数増加

精密機械事業

- プラズマCVM：水晶デバイス用ウェハ加工装置の小型機から大型自動機への展開と潜在市場の掘り起こし
- PAP：プラズマ援用研磨法によるダイヤモンド基板の高速・高精度加工プロセスの確立と装置化の加速によるダイヤモンド加工市場への参入
- ECMP：イオン伝導性物質を用いた電気化学機械研磨法によるSiCウェハの高速研磨プロセスの確立とその装置化
- CARE：研磨パッドの長寿命化による装置の実用化の検討

先端材料事業

- 再生医療・創薬分野における働き方改革に寄与する「自動細胞培養装置」の市場拡大と「大型細胞培養自動化システム」の積極的な市場展開
- 研究機関や他企業との共同研究により開発に成功した幹細胞治療向けの幹細胞分離装置による脳梗塞治療および認知症治療（自由診療）への展開
- 独自の培養技術「CELLFLOAT」を用いた軟骨の再生医療は、現在東京大学等と研究開発を進め、2025年度から医師主導治験を開始

電子デバイス事業

- AI技術に必要な、高度な半導体デバイスの生産・開発に対応した赤外線加熱型昇温脱離分析装置「ESCO-TDS1200 II IR」の受注増大に期待、今年度上半期には、高性能な温度測定機能を装備した新製品を販売開始
- 水素検出専用の分析装置「ESCO-TDS600 IR H2」や「ESCO-TDS-100 Cryo H2」を今年度に販売開始
- 中国、米国、欧州の新市場開拓を行い、事業の拡大を図る



ご清聴ありがとうございました



**JTEC CORPORATION**

<https://www.j-tec.co.jp>

本資料は、株式会社ジェイテックコーポレーションの業界動向及び事業内容について、株式会社ジェイテックコーポレーションによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。  
既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性等の要因が、  
将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。

株式会社ジェイテックコーポレーションの実際の将来における事業内容や業績等は、  
本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、2025年8月13日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社ジェイテックコーポレーションによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映したものではございません。

### 免責事項

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性、完全性及び実現性について、何ら表明及び保証するものではありません。

